笹倉 麻耶

幼い頃からの経験で女性をより美しく

彼女のファッションへの興味は小学生太古の昔から始まり、彼女の祖母は服飾業界で働いており、母もデザインをしており、自分が服への欲求が少ない時期は、親が選んだモノを着ていた。オシャレ、興味と言われていた自分服を選んでくれたのでセンスは磨かれた。が、中学生の時は自分が着たい服は着る機会がなかった。そして高校生になったと、お小遣いをためて東京に買い物しにいくようになった。こうして変な話に思えるこの自分の見えが180度変わるようなことを幼い頃からの経験を通して感じていた。

彼女は高校を卒業してモデルを始めたが、PR女とは性質は違うがそれなりにファッションを楽しんでいるようなアンカ、アパレル店で働き始めた。ボディに着せるものを考えていくうちに、お客さんはかっこいい服が着たいけど、お客さんはかっこいい服が着たいけど、診断では可愛い服が似合う場合、女性らしさをもこれでプラスする。素材を軽めのものにしたり、小物で軽さを出すといったことをしてみつつ、変えていく。内面と似合うモノが異なる場合も同様だ。例えば性格的に柔らかいタイプなのにシャープな服が似合うとき、内面と外面が違う場合は内面にも少し寄せるように少しずつ変えていく。色、素材、形などトータルのコーディネートで提せていくようにしているの。

そして女性は好みが変化することも多い。以前会話していた好きなモノと似合っていたモノが一致しなくなることもある。そのため診断を通じて「もしかして、似合わないのですって聞かれる」こともある。このようにな悩みないのかなどがわからない。そこで、今の自分の状態を伝えるとしてしまい無しが安心と考えるからだ。一度、それを人に満足してもらいたいーそれな彼女の強い思いがレッスンの中に現れ、受講生はみな満足して帰るのだろう。

診断だけではうまくいかない

ただ、彼女は診断だけに囚われて欲しくないと考えている。例えばウィンターなウィンターしか着ないのではなく、何なくいの時にどう着こなすのかを考えるのに、似合うものじゃないなけど、すべい可愛いと思えるものは買っていい。自分がクワクワするものを買って欲しいと考えている。そうしないと新しい自分を発見できないからだ。

自分の似合う色や形を知ったとて、どう着こなすのか、好きなモノは好きなモノ感じ様で、組み合わせて、首元は首ないけどイメージを大きく変えたい時などに、こんな人生のイメージ時に発揮できれば いと考えている。長く着れるものは同意だ。10年前のワンピースでもいいモノは現代でもそのままでもカーディガンを合わせたりして着ることが出来る。

ただ、普通的なスタイルだけだと古臭くなるので、色や素材で遊ばれたりするのは大切だ。例えばユニクロでもちょっと遊び方を変わっている。彼女も今年度のニットを買ったのだが、同じようなもので変えそうなものはユニクロで済ませることもある。そうすることで10年前の古気に入ってもトレンドを出しながら着ることができるのだ。

眠しい状況でも好きなことで周りを幸せに

周風流刺に見える彼女だが、そういうわけではない。ワンピースやランジェリー等は経済的に厳しくなり、今までのファッションを封印し、手作りの服を着てそれが好きになった時期もある。しかし自分らしい服を着て自分が補聞でなくなったと感じた彼女は自分を輝かせる場所を手ずしてしまい、あるメリ生を楽しめなくなり、常識時間もうまくいかなくなった。潮絡のことを考えて、自分の好きなものが、欲は求めてしまったのだ。そこから考えることで人生が変わっていった。

そしてその頃出会ったブランドがダブルスタンダードロックだった。彼女はよく足を運んでいたお店だ。ダブルスタンダードロックシングの服を中心に好きなことに挑戦し始めた彼女だが、最近ではコラボもしてくれたった。彼女は自分の始強のために展示会など、基本どんなことでもお運ぶ人。ブランドの人も、時にマザイチーさんの中にはインフルエンサーから配信、POPUP まで全て自分でこなしている方もいる。ずっと自分の中では常識の中では相野が広がるため、そういう知り合いを増やし、よりファッションについて勉強を深めたいと考えている。そもそも彼女のファッションにおけるスタイルなど姿勢がブランドさんに伝わっているのだろう。

どんどん展開する彼女には、現在の活動を継続しつつ、次はもっとコラボ作数を増やしたいと考えている。洋服にかからず化粧品などでも、今まで女性の悩みを聞いてきたからこそできる自分のこだわりの商品をコラボして、世に出していきたいと考えている。常にファッションを楽しみながら、お客さんも自分周りの人の幸せな未来のために前進する彼女の今後の活動がとても楽しみである。